

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名		義肢装具学実習						山本 真秀			
		必修・ 選択	必修	授業 形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15		
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 義肢装具学実習では理学療法士が臨床で扱うことが多い「短下肢装具」について学ぶ。理学療法士として最も必要な「動作分析」、特に「歩行分析」について再度復習し、短下肢装具の適応について実際の動画から学習する。理学療法士として最も難しいといえる装具処方について、就職後の臨床において少しでもヒントになればと考える。											
〔到達目標〕 1:歩行分析ができる 2:義肢装具、特に短下肢装具について意義・目的・種類・臨床応用について理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕 義肢装具学テキスト(南江堂)					〔準備学習・時間外学習〕 歩行分析ができなければ装具処方はできない。そのためには日々の「訓練」である。暇があれば歩行分析してみたい。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	授業オリエンテーション 装具総論										
2	歩行分析Ⅰ				歩行分析について理解する						
3	歩行分析Ⅱ				歩行分析について理解する						
4	歩行分析Ⅲ				歩行分析について理解する						
5	装具の臨床応用Ⅰ				短下肢装具の処方について、実際の臨床場面での動画から学ぶ						
6	装具の臨床応用Ⅱ				短下肢装具の処方について、実際の臨床場面での動画から学ぶ						
7	装具の臨床応用Ⅲ				短下肢装具の処方について、実際の臨床場面での動画から学ぶ						
8	確認テスト				臨床での動画から歩行分析する						
9	装具の臨床応用Ⅳ				中間テストで出題した動画について再学習する						
10	短下肢装具 <基礎編>				歩行のバイオメカニクス、短下肢装具の特性について再学習する						
11	短下肢装具 <特徴編>				短下肢装具のなかで臨床で処方されることの多い装具について学習する						
12	短下肢装具 <臨床編>				短下肢装具の臨床での処方手順や時期、臨床上で難渋することなど具体的内容を学ぶ						
13	装具の臨床応用Ⅳ				短下肢装具について学習したことを臨床場面の動画から確認する						
14	装具の臨床応用Ⅴ				短下肢装具について学習したことを臨床場面の動画から確認する						
15	期末テスト				装具について知識の最終確認テストを実施する。						
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 前半は資料はなく実技、動画での分析のみ。歩行分析を確認テストとする。 後半は資料を配布し、それに準じて講義する。期末テストは資料からのみ出題する予定である。						

2022年度シラバス

授業のタイトル(科目名) 理学療法検査・測定法実習		授業の種類 講義・実技	授業担当者 本田 勝久
授業の回数 15	時間数 30	時期 夜間部3年(前期)	必修・選択 必修
〔授業の目的・ねらい〕 ・臨床での評価の意義、問題点の抽出、患者様への対応などを学ぶ。 また疾患に応じた対応、評価などを学ぶ。 〔授業全体の内容の概要〕 理学療法士として必要な、知識・技能・態度を再確認し修得する。 各疾患から評価項目を抽出し、それに対応した実技を行ない報告が出来るようになる。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕			
コマ数			
1 4/4	授業のオリエンテーション 介助量別トランスファー（安全な技法を身に着ける）		
2 4/11	医療面接 疾患・状態・状況にそくした医療面接(重要項目選択)		
3 4/18	疾患を想定した検査測定立案・実施 発表・自己修正		
4 4/25	疾患を想定した検査測定立案・実施 発表・自己修正		
5 5/9	疾患を想定した検査測定立案・実施 発表・自己修正		
6 5/16	疾患を想定した検査測定立案・実施 発表・自己修正		
7 5/23	疾患を想定した検査測定立案・実施 発表・自己修正		
8 5/30	疾患を想定した検査測定立案・実施 発表・自己修正		
9 6/6	臨床思考過程の基本的流れ 検査測定の選定と実技 基本的ポイントの確認(医療面接、情報収集)		
10 6/13	疾患を想定した検査測定法の流れ①(一連の流れ、時間設定) 検査測定の選定と実技		
11 6/20	疾患を想定した検査測定法の流れ②(一連の流れ、時間設定) 検査測定の選定と実技		
12 6/27	疾患を想定した検査測定法の流れ③(一連の流れ、時間設定) 検査測定の選定と実技		
13 7/4	疾患を想定した検査測定法の流れ④(一連の流れ、時間設定) 検査測定の選定と実技		
14 7/11	疾患を想定した検査測定法の流れ⑤(一連の流れ、時間設定) 検査測定の選定と実技		
15 7/19	疾患を想定した検査測定法の流れ⑥(一連の流れ、時間設定) 検査測定の選定と実技		
クラスの進行状況で内容を変えます。			
〔備考〕 疾患を想定した検査測定法では、事前課題を渡す。(ランダムに発表者を指名する) 各自準備のうえ、検査を行う。			
〔参考文献〕 ・臨床実習フィールドガイド 改定第2版 ＜南江堂＞ ・理学療法評価学 改訂第4版 ＜金原出版＞ ・姿勢と動作 第3版、基礎運動学 第6版		〔単位認定の方法及び基準〕 ① 毎授業のワークシート提出 ② 課題レポート	

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								渡辺 寛			
画像診断学				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕											
リハビリテーション病院の院長である医師による理学療法士がリハビリテーションを行なうために必要な画像の評価、治療機器について学習する。特に理学療法士は医師の指示のもとによる医療行為が法律上定められており医師と同じ視点で画像診断も診られるようになってほしい。											
〔到達目標〕											
・疾患に即した画像の評価について診られるようになる ・画像診断で医師からどのような指示が出ても理解できるようになる											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
・授業時配布資料						普段から時事問題に関心を持ちながら理学療法士としての役割の広さを考えながら参加すること					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	リハビリテーションに必要な評価機器について					それぞれの検査法の特徴を理解できる					
2	検体検査・生理検査					画像検査以外の検査方法について理解できる					
3	画像検査総論① 電離放射線 X線写真など					画像評価機器を使った画像診断が診られるようになる					
4	画像検査総論② 電離放射線 CTなど					画像評価機器を使った画像診断が診られるようになる					
5	画像診断総論③ MRIなど					画像診断による画像診断できるようになる					
6	画像診断 頭部外傷など					画像診断による頭部外傷を診られるようになる					
7	画像診断 頭部外傷など					画像診断による頭部外傷を診られるようになる					
8	画像診断 頸部疾患					画像診断による頸部疾患を診られるようになる					
9	画像診断 くも膜下出血					画像診断によるくも膜下出血を診られるようになる					
10	画像診断 脳内出血					画像診断による脳内出血を診られるようになる					
11	画像診断 脳梗塞					画像診断による脳梗塞を診られるようになる					
12	画像診断 脳腫瘍					画像診断による脳腫瘍を診られるようになる					
13	画像診断 胸部					画像診断による胸部疾患が診られるようになる					
14	画像診断 腹部・腰部					画像診断による腹部・腰部疾患がを診られるようになる					
15	期末テスト					まとめ					
〔評価について〕 評価は試験で行う。 試験は小テスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項についてはメモをとること。 配布資料による授業を行なう。					

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義・演習	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
スポーツリハビリテーション論											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
理学療法士として急性期病院、整形外科クリニック、老人保健施設、訪問看護ステーションで勤務した経験を持ち、スポーツ選手に対する理学療法を現在も臨床業務で行っている教員が、スポーツリハビリテーションで必要と考えられる内容について授業を行う。											
〔到達目標〕											
順調な復帰のために組織の強度と組織への負荷の関係を理解できる。各組織のヒーリングプロセスを理解できる。様々な組織の修復にかかる期間が異なることが理解できる。各組織の強度を上げるための刺激の入れ方と時期を理解できる。											
競技を分析し、治療からパフォーマンスアップのためのトレーニングプログラム作成を通してスポーツリハビリテーションの全体像を考えられる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 競技分析のしかた					スポーツリハビリテーションに必要な競技分析の全体像を理解できる。					
2	競技分析、トレーニングプログラム作成①					陸上競技(短距離)の競技分析、トップスピードアップのためのトレーニングプログラム作成を通してパフォーマンスアップに関わるエネルギー供給系を含め、パフォーマンスアップに関わる要素を理解できる。					
3	競技分析、トレーニングプログラム作成②					陸上競技(短距離)のパフォーマンスアップに向け、競技動作自体を使ったトレーニング、競技動作に近い動作を使ったトレーニングを作成することができる。					
4	トレーニングプログラム作成②					陸上競技(短距離)のパフォーマンスアップに向け、競技動作を考慮した多関節、単関節のトレーニングプログラムを作成することができる。					
5	トレーニングプログラム作成③					100m走の加速期のスピードUpのためのトレーニングを作成することができる。					
6	トレーニングプログラム作成④					100m走の加速期のスピードUpのためのトレーニングを作成することができる。					
7	トレーニングプログラム作成⑤					ボクスレーの加速力Upのための目的の動作自体を使ったトレーニング、目的の動作に近い動作を使ったトレーニングを作成することができる。					
8	トレーニングプログラム作成⑥					ボクスレーの加速力Upのためのトレーニングに必要な多関節の筋力増強訓練、単関節の筋力増強訓練を作成することができる。					
9	組織の損傷と鑑別、修復過程、修復期間①					順調な復帰のために組織の強度と組織への負荷の関係を理解できる。各組織のヒーリングプロセスを理解できる。様々な組織の修復にかかる期間が異なることが理解できる。各組織の強度を上げるための刺激の入れ方と時期を理解できる。					
10	組織の損傷と鑑別、修復過程、修復期間②					順調な復帰のために組織の強度と組織への負荷の関係を理解できる。各組織のヒーリングプロセスを理解できる。様々な組織の修復にかかる期間が異なることが理解できる。各組織の強度を上げるための刺激の入れ方と時期を理解できる。					
11	競技分析と治療・トレーニングプログラム作成①					特定の傷害、特定の競技を分析し、治療からパフォーマンスアップのためのトレーニングプログラム作成を通してスポーツリハビリテーションの全体像を考えられる。					
12	競技分析と治療・トレーニングプログラム作成②					特定の傷害、特定の競技を分析し、治療からパフォーマンスアップのためのトレーニングプログラム作成を通してスポーツリハビリテーションの全体像を考えられる。					
13	競技分析と治療・トレーニングプログラム作成③					特定の傷害、特定の競技を分析し、治療からパフォーマンスアップのためのトレーニングプログラム作成を通してスポーツリハビリテーションの全体像を考えられる。					
14	期末試験解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
15	まとめ					習得できていない部分を解消し、臨床に繋げる					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 試験は中間レポート(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において、原理原則を考えながら自ら考え、作成していくことを求める。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3年	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								樋口 美幸			
運動療法学実習(神経筋疾患)				必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
神経難病といわれる中枢神経疾患や神経・筋疾患の変性疾患、脱髄性疾患などの症状と経過、評価法・治療法を習得する。ALS、筋ジストロフィー、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症等の疾患について学習する。講義学習内で随時行われる問題演習と中間・期末テストで復習出来る授業構成とする。											
〔到達目標〕											
神経難病の症状・治療について学び、説明できるようにする。 神経難病の症例などを元に臨床場面でのリハビリテーション評価・治療をイメージできる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学 (中山書店)											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 神経難病(変性疾患)総論・ALS①+問題演習					変性疾患について概要を学ぶ。ALSの病態、陰性徴候、予後について理解する。					
2	ALS②+問題演習					ALSのリハビリテーションにおける評価方法・治療を理解する。					
3	筋ジストロフィー①+問題演習					ディシェンヌ型筋ジストロフィー、ベッカー型、顔面肩甲上腕型、肢帯型、福山型、遠位型、筋強直性など					
4	筋ジストロフィー②+問題演習					筋ジストロフィー症の評価、治療について理解する。					
5	パーキンソン病①+問題演習					錐体外路徴候、大脳基底核の機能、PDの病態・症状について理解する。					
6	パーキンソン病②+問題演習					PD症状各論、症状のメカニズム、逆説動作について理解する。					
7	パーキンソン病③+問題演習					PDのリハビリテーション治療、予後、ADL指導について理解する。					
8	中間テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	小脳性疾患 脊髄小脳変性症の病態・評価・治療+問題演習					小脳の機能、脊髄小脳変性症の病態と症状を理解する。					
10	多系統萎縮症に対する病態・評価・治療+問題演習小テスト					オリブ橋小脳萎縮症、線条体黒質変性症、シャイドレーガー症候群について学ぶ。					
11	運動失調に対する治療+問題演習					運動失調症状の評価法、理学療法の種類(フレンケル体操等)について理解する。					
12	ギラン・バレー症候群+問題演習					ギラン・バレー症候群の病態、評価、治療について理解する					
13	多発性硬化症の病態・評価・治療+問題演習					多発性硬化症の病態・評価・治療について理解する。					
14	重症筋無力症の病態・評価・治療+問題演習					重症筋無力症の病態・評価・治療について理解する。					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 (授業スライド資料は穴埋め記入部分あり。)必要に応じ予め印刷をしたり、タブレット等で記入できるように準備をしておくこと。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講区分	後期	担当教員		
授業科目名						松田 輝洋		
リハビリテーション医学		必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕								
臨床、地域リハビリテーション支援事業、国家試験予備校講師などに携わる理学療法士による講義で、疾病や外傷から派生する障害を正しく理解し、的確に障害へのリハビリテーションアプローチを選択できるようになるため、必ず復習をすること。								
〔到達目標〕								
2025年、団塊の世代が75歳以上となり医療・介護の需要が今以上に加速します。我が国の現状と制度を理解する。リハビリテーション医学の対象である疾患から派生する障害を理解する。その障害に対するリハビリテーションアプローチを理解する。								
〔使用教材、参考文献等〕								
リハビリテーション医学〔羊土社〕、配布資料								
回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)						
1	オリエンテーション・リハビリテーション医学・医療の概要	国の現状を知る、障害、地域包括ケアシステム、介護保険など						
2	・リハビリテーション医学総論1 予防・廃用症候群	廃用症候群がリハビリテーション医療において重要視されている理由を理解できる。						
3	・リハビリテーション医学総論2 Frailty	Frailty、Sarcopenia、Locomotive syndromeが理解できる。						
4	・リハビリテーション医学総論3 エネルギー代謝	無酸素性エネルギー代謝、有酸素性エネルギー代謝が理解できる。						
5	・リハビリテーション医学総論4 栄養	リハビリテーション栄養について理解できる						
6	・リハビリテーション医学総論5 薬理学	リハビリテーション薬理学について理解できる						
7	リハビリテーション医学疾患各論 がん	良性腫瘍と悪性腫瘍の違い、がん患者に対するリハビリテーションを理解できる。						
8	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
9	リハビリテーション医学疾患各論 中枢神経と末梢神経	中枢神経と末梢神経の違いが理解できる。錐体路障害と錐体外路障害の違いが理解できる。						
10	リハビリテーション医学疾患各論 脳神経	脳神経12対を理解できる。						
11	リハビリテーション医学疾患各論 慢性腎臓病(CKD)	腎機能、糖尿病、透析治療、リハビリテーションが理解できる。						
12	リハビリテーション医学疾患各論 姿勢・歩行	抗重力姿勢や歩行周期が理解できる。						
13	疾患へのリハビリテーションアプローチ 症例検討	症例提示を受けて、必要な情報収集、評価の選択ができる。						
14	疾患へのリハビリテーションアプローチ 症例発表	選択した評価内容などが何故必要か説明できる。						
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕			〔特記事項〕					
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			毎授業必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2021年度 シラバス(修正版)

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員			
授業科目名								相澤まどか			
小児科学				必修・選択	必修	授業形態	授業	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
小児科学では、小児疾患の原因・病態の講義と、小児の受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患の理解を図る。											
〔到達目標〕											
理学療法士として必要な小児疾患の基本的知識を修得し、生涯に亘って小児のリハビリテーションに応用して実践できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学」						事前に教科書当該部を熟読し、医学用語を理解しておく必要がある。講師による重要箇所は講義中に強調し説明があるので各自で記述等を行い復習すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	1章:小児科学概論					小児科学の特徴、小児の成長・発達、栄養・摂食、保健に関する内容を理解できる。					
2	2章:診断と治療の概論 3章:新生児・未熟児疾患					小児科の診断と検査と治療法に関する内容、新生児・未熟児の疾患に関する内容を理解できる。					
3	4章:先天異常と遺伝病＋小テスト①(1～2回目)					先天性疾患、遺伝病に関する内容を理解できる。					
4	5章:神経・筋・運動器疾患①					小児における神経疾患の診断や検査、疾患の特徴を理解できる(中枢神経疾患)。					
5	5章:神経・筋・運動器疾患②					小児における神経疾患の診断や検査、疾患の特徴を理解できる(てんかん・発達遅滞・発達障害)。					
6	5章:神経・筋・運動器疾患③					小児における神経疾患の診断や検査、疾患の特徴を理解できる(筋ジストロフィー)。					
7	6章:循環器疾患					心血管系の発生と体外循環への適応、小児における循環器疾患の症状、検査、特徴を理解できる。					
8	7章:呼吸器疾患＋小テスト②(3～7回目)					小児における呼吸器疾患の症状、検査、特徴を理解できる。					
9	8章:感染症					小児における感染症の症状、診断、治療を理解できる。各年代での代表的疾患を理解する。					
10	9章:消化器疾患 10章:内分泌・代謝					消化管の発生、機能的発達、症状、小児における消化器疾患を理解する。小児における内分泌疾患、糖代謝を理解する。					
11	12章:免疫・アレルギー疾患・膠原病					小児の免疫システム、アレルギーに関する疾患を理解する。					
12	11章:血液＋小テスト③(8～11回目)					小児の血液疾患を理解する。					
13	13章:腎・泌尿器・生殖器疾患 14章:腫瘍性疾患					小児の腎・泌尿器疾患を理解する。小児の悪性腫瘍発生頻度、疾患の特徴を理解する。					
14	15章:習癖・睡眠関連病態・心身医学的疾患・虐待 16章:重症心身障害児 17章:眼科・耳鼻科的疾患					小児の習癖、睡眠関連の病態、心身医学的疾患、児童虐待に関する内容を理解する。眼科・耳鼻科的の代表的疾患を理解する。					
15	期末テスト＋授業振り返り					テストにより効果判定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
小テスト(20点×3回)＋期末テスト(40点)＝100点満点で評価する。						授業は教科書に沿って行われるため、毎授業において重要事項は下線を引いたり、メモをとること。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名		必修・選択	必修	授業形態	講義	水梨 将宏		
日常生活動作学						時間数(単位)	30(2)	授業回数 15
〔授業の学習内容と心構え〕								
・回復期リハ病院にて、在宅復帰に向けたADLの向上に取り組む理学療法士として日々従事している。								
・今まで学んできた運動学や日常生活動作学の知識を発展させ、実際の日常生活動作の問題を評価・治療につなげられることを目標とする。								
・実技と他者への説明に時間を多き、学んだ知識の理解と整理に努めてもらう取り組みを重視する。								
〔到達目標〕								
・動作観察および動作分析の説明および解釈が行えることを目標とする。								
・疾患別における日常生活動作の問題について、理解・説明できることを目標とする。								
・日常生活動作における理学療法評価の習得を目標とする。								
〔使用教材、参考文献等〕 日常生活動作学の教科書 Teamsで提示する配布資料				〔準備学習・時間外学習〕 小テストを授業終了後に各自で振り返りとして実施をする。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)			
1	ADLの概念				ADLの概念、ICIDHとICF、QOLの用語の説明ができる。			
2	ADLの運動学的分析 ①				静力学、運動力学の用語が説明ができる。			
3	ADLの運動学的分析 ②				運動力学的分析について説明ができる。			
4	基本動作の運動学的分析(寝返り)				寝返りの運動学的分析が説明できる。			
5	基本動作の運動学的分析(起き上がり)				起き上がりの運動学的分析が説明できる。			
6	基本動作の運動学的分析(立ち上がり)				立ち上がりの運動学的分析が説明できる。			
7	中間試験				第1～6回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。			
8	ADLを支援する機器(歩行補助具)				各歩行補助具の特徴について説明ができる。			
9	ADLを支援する機器(歩行補助具)②				各歩行補助具を用いた介助ができる。			
10	筋骨格系障害に対するADL能力低下				筋骨格系障害に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。			
11	関節リウマチに対するADL能力低下				関節リウマチに対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。			
12	股関節術後に対するADL能力低下				股関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。			
13	膝関節術後に対するADL能力低下				膝関節術後に対するADL能力低下の要因とその対策について説明ができる。			
14	股関節・膝関節の術後の歩行能力低下				股関節・膝関節術後の歩行能力低下の要因とその対策について説明ができる。			
15	期末試験				第8～14回の内容を、筆記試験により効果判定を行い、理解度を深める。			
〔評価について〕					〔特記事項〕			
・中間試験(計40点)、期末試験(計40点)、 毎回の小テスト(計20点)の3合計100点で評価する。								
・評価方式は筆記試験とする。								

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法学科		学年	3	開講 区分	前期	担当教員				
授業科目名		疾患別理学療法学実習Ⅱ（中枢）						必修/ 選択	必修	授業 形態	講義 実技	時間数 （単位）
〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）												
脳血管障害に対する基本的な理学療法の進め方（一般的評価、理学療法の目的ならびに具体的方法、リスク管理）について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。												
〔到達目標〕												
脳血管障害の病態・評価・リハビリテーションの実際について学ぶ 脳血管障害後片麻痺患者に対する基本的な運動療法を習得する												
〔使用教材、参考文献等〕 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ						〔準備学習・時間外学習〕 準備学習1時間（シラバスに従ってテキストを読んでおく） 時間外学習1時間（ノートまとめ）						
回	〔授業概要〕					到達目標（できるようになること）						
1	中枢系理学療法の基礎的知識					中枢系理学療法の基礎的知識を理解できる						
2	脳損傷の定義および病態					脳損傷の定義および病態を理解できる						
3	運動・感覚の中枢機能と構造（小テスト）					運動・感覚の中枢機能と構造を理解できる						
4	脳損傷とその回復過程					脳損傷とその回復過程を理解できる						
5	脳血管障害における医学的管理					脳血管障害における医学的管理を理解できる						
6	脳卒中に対するリハビリテーションの流れ、片麻痺患者の運動障害の特徴（小テスト）					脳卒中に対するリハビリテーションの流れと片麻痺患者の運動障害の特徴を理解できる						
7	片麻痺に対する評価方法（1）impairment					片麻痺に対する評価方法を理解できる						
8	片麻痺に対する評価方法（2）activity limitation（小テスト）					片麻痺に対する評価方法を理解できる						
9	片麻痺に対する評価方法（実習）					片麻痺に対する評価方法を身に付ける						
10	片麻痺患者に対する運動療法（1）課題指向型					片麻痺患者に対する運動療法（1）課題指向型を理解できる						
11	片麻痺患者に対する運動療法（2）座位・立位（実習）					片麻痺患者に対する運動療法（2）座位・立位を理解できる						
12	片麻痺患者に対する運動療法（3）歩行（小テスト）					片麻痺患者に対する運動療法（3）歩行を理解できる						
13	第1-12回まとめ					第1-12回まとめ						
14	期末テスト					期末テスト						
15	テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーション最前線					テスト返却及びテスト振り返り、神経系リハビリテーションの最前線を知る						
〔評価について〕 合格基準は学校基準に準ずる 小テスト40点/期末テスト60点						〔特記事項〕						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講 区分	前期	担当教員			
授業科目名						温 龍太郎 堀内 秀則 田中 信一			
理学療法総合セミナー		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	実技	時間数 (単位)	30 (2)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕 理学療法評価に関わる検査・測定法を実技形式にて反復実践する。これにより、評価場面における慣れを企図する。 加えて、技術の確実な修得を目指す。 また、実技実践のみならず、他学生の実践場면을観察・分析することで、自身の学びとする。									
〔到達目標〕 評価実習に臨むにあたり、「臨床的推論」の能力を養う。すなわち、適切な検査・測定法を自身で選択し、それらを正確かつ安全に実施できるようになること。そして、複数の評価結果を統合し、妥当な解釈および判断を行なえるようになること。以上を到達目標とする。 加えて、リスク管理能力および不測の事態への対応力も身につけてもらう。									
〔使用教材、参考文献等〕 一年次の理学療法評価概論および二年次の理学療法検査測定法の全プリント、教科書『理学療法評価学 改訂第6版』（金原出版株式会社）等を参考にしてください。									
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション			実技試験の方法・内容・求められていることを理解する					
2	実技試験(第1週目)			実技実践、および、その観察を通し、自身の不足している技術および能力を自覚する					
3	実技試験(第2週目)			同上					
4	実技試験(第3週目)			同上					
5	実技試験(第4週目)			同上					
6	実技試験(第5週目)			同上					
7	実技試験(第6週目)			同上					
8	実技試験第7週目)			同上					
9	実技試験(第8週目)			同上					
10	実技試験(第9週目)			同上					
11	実技試験(第10週目)			同上					
12	実技試験(第11週目)			同上					
13	実技試験(第12週目)			同上					
14	実技試験(第13週目)			同上					
15	実技試験(第14週目)			同上					
〔評価について〕 授業への主体的な参加および実技試験後の「報告書」ならびにOSCEの成績を以て評価する。				〔特記事項〕 授業外での実技練習を積極的に行なうことを推奨する。その際、臨床場면을想定し、実際の患者を演じながら行なうことが望ましい。そのためには、あらかじめ多様な疾患の知識を有していることが必要不可欠となる。よって、教科書、プリント等の文献を全面的に活用し、勉学に励んでほしい。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名						石田輝也			
運動療法学実習 小児		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	座学及び 実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業 回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕									
理学療法士として、小児領域に長く携わっている教員が国家試験に多く出題される、正常発達の評価・脳性麻痺を中心に、現在の小児理学療法における概要を臨床に即して学ぶ授業を行う。運動療法に限らず小児疾患に対する理学療法士としての支援方法を伝えるので、対象児の将来をイメージしながら授業に臨んでほしい。									
〔到達目標〕									
正常発達および小児疾患を理解し、それに適応する運動療法及び支援方法について理解し、説明できるようになる。									
〔使用教材、参考文献等〕									
教員が作成及び配布するプリント									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション、神経発達症の概論 (1)				発達障害の概要を理解し、説明できるようになる。				
2	神経発達症の概論 (2) 小テスト				発達障害の概要を理解し、説明できるようになる。				
3	神経発達症の評価、運動療法 小テスト				神経発達症に対する評価方法、運動療法を理解し、説明できるようになる				
4	正常発達 (1) 背臥位、腹臥位、坐位の発達 小テスト				正常発達における背臥位、腹臥位、座位の発達過程を理解し説明できるようになる。				
5	正常発達 (2) 立位、歩行、移動の発達 小テスト				正常発達における立位、歩行、移動の発達過程を理解し説明できるようになる。				
6	正常発達 (3) 上肢機能の発達、社会性の発達 小テスト				正常発達における上肢機能及び認知社会面の発達過程を理解し説明できるようになる。				
7	筋ジス 二分脊椎、ダウン症、その他小児特有疾患 小テスト				様々な小児特有の疾患が呈する異常運動発達の特徴を理解し、説明できるようになる。				
8	中間テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	脳性麻痺 概略 小テスト				脳性麻痺の概念、障害像、及び評価から治療までの概要を理解し、説明できるようになる。				
10	脳性麻痺 痙直型 アトーゼ型 小テスト				脳性麻痺が呈する異常運動発達の特徴を理解し、説明できるようになる。				
11	脳性麻痺 評価・治療 小テスト				脳性麻痺の評価方法、治療方法を理解し、実施できるようになる。				
12	重症心身障害児者 小テスト				重症心身障害児者の概要と療育支援について理解し、説明できるようになる。				
13	小児の補装具 小テスト				小児の補装具について理解し、説明できるようになる。				
14	グループディスカッションに伴うレポート提出				小児に対する療育支援及び運動療法について理解し、プレゼンテーション及び実施できるようなる。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 課題レポート 20%(14回目) 中間試験 40% 期末試験 40%				〔特記事項〕 各回授業にて小テストを実施する(成績評価には含めない)。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 本田 勝久 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業回数	8
地域理学療法学											
〔授業の学習内容と心構え〕											
在宅復帰も診るリハビリ現場で臨床を積んだ理学療法士である専任教員による日本の社会保険制度を理解する。在宅リハビリ・デイサービス・デイケアシステムなど医療ではなく、地域のリハビリテーションにおける現状と地域包括ケアシステムを理解する。											
〔到達目標〕											
医療・福祉・介護業務における、行政と法的制度との関わりを理解する。 ・その中での理学療法業務および概念を理解する。 ・地域リハビリテーションの概要を理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕 ・授業時配布資料 標準理学療法学 地域理学療法学 第3版(医学書院)						〔準備学習・時間外学習〕 普段から時事問題に関心を持ち、理学療法士としての役割の広さを考えて参加すること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 第1章 地域理学療法の概念					第1章 地域理学療法の概念を理解する					
2	第2章 地域理学療法を支えるシステム					Ⅰ. 福祉関連法的諸制度(1)の仕組みを理解する					
3	第2章 地域理学療法を支えるシステム					Ⅰ. 福祉関連法的諸制度(2)の仕組みを理解する					
4	第2章 地域理学療法を支えるシステム					Ⅴ. 社会資源 Ⅵ. 行政における理学療法士の役割を理解する					
5	第2章 地域理学療法を支えるシステム					Ⅶ. 関連機関と地域連携を理解する					
6	第2章 地域理学療法を支えるシステム					Ⅶ. 関連機関と地域連携(地域包括ケア)の意義を理解する					
7	第3章 地域理学療法の展開					Ⅷ～Ⅹ. 地域における連携 地域包括ケアシステムを理解する					
8	前半の復習 期末テスト					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講 区分	後期	担当教員			
授業科目名						本田勝久			
保健医療福祉論		必修 ・ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	15 (1)	授業 回数	8
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
①医療・福祉・介護業務における、行政と法的制度との関わりを理解する									
②制度内での多職種連携と理学療法業務を理解する									
③地域リハビリテーションの概要を理解する									
地域リハビリテーションに関わる教員の経験から制度上の役割を学ぶ									
〔到達目標〕									
①社会保険制度を理解する									
②介護保険領域を中心とした地域リハビリテーションにおける関連法規とシステムを理解する。									
③障がい者自立支援・就労支援について理学療法士の役割を理解する									
〔使用教材、参考文献等〕									
* シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト(南江堂) 地域理学療法学(南江堂)									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	地域リハビリテーションの考え方 制度の変革				地域リハビリテーションの考え方を理解する 制度改革と歴史を理解する				
2	地域包括支援システムなかでの理学療法士の役割				地域包括支援システムの理解と、その中での理学療法士の役割を理解する				
3	地域支援事業のなかでの理学療法士の役割				地域支援事業の理解と理学療法士の役割を理解する				
4	介護保険サービス概論(介護保険サービスの仕組み) 介護保険サービス下での理学療法士の役割				介護保険の仕組みを理解する 介護保険下での理学療法士の役割を理解する				
5	福祉関連法的諸制度、社会資源・関連機関と地域連携				福祉関連法的諸制度を理解し、社会資源・関連機関との地域連携について検討する。				
6	多職種連携を考える				多職種における連携の意義を理解し、効果的な連携方法について意見を述べることができる。				
7	障がい者の自立支援・就労支援を考える				障がい者の自立支援・就労支援について自身の考えを述べることができる。				
8	前半の復習 期末テスト				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と総括後の期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3年	開講区分	後期	担当教員 齋藤 悠里 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
精神医学											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
学習内容: 理学療法士として、必要とされる精神疾患全般について学ぶ。 心構え: 教授者が実際に精神科クリニックで接する精神疾患の患者さんを例に様々なケースを伝えていくことで、それぞれの精神疾患について理解が深まるように指導する。											
〔到達目標〕											
理学療法士が臨床現場で、精神疾患を同時に罹患している患者さんに施術するときに、その精神状態を知っていることは重要である。どのような精神疾患があり、その精神状態を理解できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕 学生のための精神医学						〔準備学習・時間外学習〕 毎回、前回の復習をして、その内容について小テストを行う。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	精神医学についての歴史と身体医学との違いを概説し精神医学の概念、及び精神医学面接法と診断の過程について学ぶ					精神医学と身体医学の違いを説明でき、精神医学の面接法と診断過程を定義できる。					
2	統合失調症についてのケースの紹介を通して、疾患イメージを定着させる。症状による分類の理解。					統合失調症の疾患について説明でき、症状による分類が出来る					
3	統合失調症について、1次妄想・2次妄想など様々な症状の詳解とリアルなイメージ作り。					統合失調症の様々な症状を具体的に説明できる					
4	認知症の分類とそれぞれの原因について学ぶ					認知症のそれぞれの疾患の原因と症状を区別できる					
5	てんかんの分類と症状、及び依存症の分類と離脱症状を学ぶ					てんかんの種類による症状を区別でき、依存症の説明が出来る					
6	様々な気分障害の症状及び治療法について学ぶ					様々な気分障害を区別でき、それぞれの症状を説明できる					
7	様々な神経症障害の症状及び治療法について学ぶ					それぞれの神経症障害を説明でき、症状から定義できる					
8	確認テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
9	摂食障害などの生理的障害について、その症状と治療法について学ぶ					摂食障害や睡眠障害について、症状と治療法について説明できる					
10	11種類のパーソナリティ障害、それぞれの特徴と対処法について学ぶ					それぞれのパーソナリティ障害について、区別ができ、それぞれの障害について説明が出来る					
11	児童期に注目される発達心理学と発達障害について学ぶ					発達段階について区別でき、発達障害について説明できる					
12	思春期・青年期に注目される特徴と精神障害について学ぶ					思春期以降に起きる精神疾患について詳しく説明できる					
13	高齢者の特徴と高齢者の精神障害について学ぶ					高齢者の心理状態と特徴的な精神疾患について説明できる					
14	精神障害における薬物療法について学ぶ					様々な精神疾患における薬物療法の説明が出来る					
15	期末テスト 解説					テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。					
〔評価について〕 評価は、確認テスト(50点)と期末テスト(50点)および小テストの合計で評価する。評価は学則規定に準ずる						〔特記事項〕 授業内だけでなく、自主的な学習を促してより深い理解を求める					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	理学療法士科 I 部	学年	3	開講区分	後期	担当教員 渡邊 健二 先生			
授業科目名	老年学	必修・選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(2)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

高齢者に特徴的な疾病、外傷とその治療やリハビリテーション実施上の問題点、また障害高齢者を受け入れる療養上の問題点について理解を図る。

〔到達目標〕

心身の健康から見た高齢者の特徴、加齢的变化の本質を理解できる。
老齢者が罹患しやすい疾患が修得できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

標準理学療法学・作業療法学 老年学

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習すること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 老年学とは	老年学の概念を理解し、説明が出来るようになる
2	老化と加齢変化① —老化の機序、加齢に伴う生理機能の変化	加齢と老化の違いを理解し、説明できるようになる
3	老化と加齢変化② —生理機能の変化、感覚・自立・高次脳機能の加齢変化	生理機能の変化、感覚・自立・高次脳機能の加齢変化が理解できる。
4	老化と加齢変化③ —運動機能、精神心理面の加齢変化	運動機能、精神心理面の加齢変化を理解できる
5	高齢者の機能評価① —総合的機能評価、日常生活活動の評価や測定方法	日常生活活動(ADLなど)の評価や測定方法を理解できる。
6	高齢者の機能評価② —障害老人の日常生活自立度の評価	日常生活活動(ADLなど)の評価や測定方法を理解できる。
7	高齢者の機能評価③ —知的機能の評価	知的機能の評価を理解できる。 高齢者の機能評価についての内容を説明できる
8	中間試験	第1～7講義の内容を理解し、説明ができる
9	老年症候群 —老年症候群の概念、各症状の理解	老年症候群の概念、各種障害を理解できる。
10	循環器疾患—高血圧症、低血圧症、不整脈、AED、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)心臓弁膜症、うっ血性心不全、大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症	循環器疾患における病態を理解できる。
11	呼吸器疾患 —高齢者肺炎、誤嚥性肺炎、慢性閉塞性肺疾患	呼吸器疾患における病態を理解できる。
12	精神神経疾患—各認知症について 泌尿器疾患—腎不全、膀胱炎、前立腺肥大、前立腺癌	精神神経および泌尿器疾患における病態を理解できる。
13	骨関節疾患と加齢変化	骨関節疾患における病態を理解できる。
14	脳血管疾患と加齢変化	脳血管疾患における病態を理解できる。
15	期末試験	第1～14講義の内容を理解し、説明ができる

〔評価について〕

中間試験30% 期末試験30% 小テスト40%で59%以下を不合格とする。
※小テスト:各講義内で実施。講義内容を復習する内容

〔特記事項〕

講義では、老年学をよりよく理解できるように、重要なポイントについてのみ解説する。学生は自主的に教科書を読み、人体の加齢変化についての理解を深めなければならない。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科	理学療法士科	コース・部	Ⅱ部	学年	3	開講区分	後期	担当教員 温 龍太郎 堀内 秀憲			
授業科目名				必修・選択	必修	授業形態	講義演習	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
PT検査測定実習											

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

脳血管疾患、運動器疾患、内部障害について、その病態および評価技法を、座学と実技実践を通し、より深く学ぶ。

〔到達目標〕

確たる事実から、論理的に推論する技術の修得を目指す。

〔使用教材、参考文献等〕

一年次の理学療法評価概論および二年次の理学療法検査測定法の全プリント、教科書『理学療法評価学 改訂第6版』(金原出版株式会社)等を参考にして下さい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	脳血管疾患① (担当:温)	脳画像読影を、病態解釈および予後予測も含め的確に行えるようになる。
2	脳血管疾患② (担当:温)	脳画像読影を、病態解釈および予後予測も含め的確に行えるようになる。
3	脳血管疾患③ (担当:温)	脳画像読影を、病態解釈および予後予測も含め的確に行えるようになる。
4	脳血管疾患④ (担当:温)	脳画像読影を、病態解釈および予後予測も含め的確に行えるようになる。
5	脳血管疾患⑤ (担当:温)	脳画像読影を、病態解釈および予後予測も含め的確に行えるようになる。
6	脳血管疾患⑥ (担当:温)	脳画像読影を、病態解釈および予後予測も含め的確に行えるようになる。
7	脳血管疾患⑦ (担当:温)	脳画像読影を、病態解釈および予後予測も含め的確に行えるようになる。
8	脳血管疾患⑧ (担当:温)	脳画像読影を、病態解釈および予後予測も含め的確に行えるようになる。
9	運動器疾患① (担当:堀内)	情報の収集・解釈を通し、運動器疾患の病態理解および予後予測、治療プログラム作成を的確に行えるようになる。
10	運動器疾患② (担当:堀内)	情報の収集・解釈を通し、運動器疾患の病態理解および予後予測、治療プログラム作成を的確に行えるようになる。
11	運動器疾患③ (担当:堀内)	情報の収集・解釈を通し、運動器疾患の病態理解および予後予測、治療プログラム作成を的確に行えるようになる。
12	運動器疾患④ (担当:堀内)	情報の収集・解釈を通し、運動器疾患の病態理解および予後予測、治療プログラム作成を的確に行えるようになる。
13	内部障害① (担当:堀内)	代謝障害の病態解釈およびリスク管理を的確に行えるようになる。
14	運動器疾患⑤ (担当:堀内)	代謝障害を合併した運動器疾患の治療プログラムを作成できるようになる。
15	運動器疾患⑥ (担当:堀内)	代謝障害を合併した運動器疾患の治療プログラムを作成できるようになる。

〔評価について〕

出席状況、小テスト、レポート課題より評価する。

〔特記事項〕

評価実習に臨むにあたり仕上げの段階であることを自覚すること。分からない部分はそのままにせず、積極的に質問に来ることを推奨する。適切な評価なくして治療はありえない。治療のための第一歩だと心得ること。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 水梨 将宏 先生			
授業科目名				必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
日常生活活動学実習											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
回復期リハビリ病院で理学療法士として勤務している講師による授業。日常生活を改善させるためには疾患・年齢・能力を理解し身体状況にあったADL支援機器の選択、基本動作、移動動作介助法・指導方法が必要になる。患者様の視点で考察して欲しい。											
〔到達目標〕											
疾患の特徴を理解し一人一人の対象者の能力に適した介助方法、指導方法を実践できるようになる。											
〔使用教材、参考文献等〕						〔準備学習・時間外学習〕					
ADL 羊土社 新版 日常生活活動 医歯薬出版						日常生活活動は、リハビリ対象者だけのものではなく自分たちの生活の中でも行っていることである。常にどのようにすれば上手くいくのかを考えること。					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	日常生活動作評価・QOL評価の時期・問診・実施事項					評価の目的・時期・問診の方法を理解し実践できる。					
2	基本的動観察①(寝返り、起き上がり・長座位)					対象者の持ち方起き上がり、立ち上がりの基本を理解し実践できる。					
3	基本的動作の観察②(床からの起き上がり・座位立ち上がり)					介助の方法、指導方法を理解し説明し実践できるようになる。					
4	基本的動作の介助方法 ③(端座位・車いす座位・立位)					基本的な姿勢保持 介助方法を理解し説明し実践できるようになる。					
5	疾患別 動作介助方法・指導方法 認知症					病態を理解し、認知症の方のコミュニケーションの取り方・ADLの指導方法・予防について学び実践できるようになる。					
6	疾患別 動作介助方法・指導方法 脳血管疾患①					病態を理解し、脳血管障害の方の寝返り、起き上がり介助方法・動作の指導方法を学び実践できるようになる。					
7	疾患別 動作介助方法・指導方法 脳血管疾患②					端座位・立ち上がり、移乗、床から立ち上がり介助方法・動作の指導方法について実践できるようになる。					
8	確認試験					筆記試験にて効果判定を実施、それにより自分が理解できていない箇所を把握する。					
9	疾患別 動作介助方法・指導方法 脊髄損傷①					病態を理解し、脊髄損傷の方の寝返り、起き上がりの介助方法、指導方法を学び実践できる。					
10	疾患別 動作介助方法・指導方法 脊髄損傷②					脊髄損傷の方の移乗動作 介助方法・自立するための指導法を学び実践できるようになる。					
11	疾患別 動作介助方法・指導方法 関節リウマチ					病態を理解し、関節リウマチの方の動作介助および指導方法・生活指導を学び実践できる。					
12	疾患別 動作介助方法・指導方法 人工関節置換術					病態を理解し、変形性股関節症・膝関節症の方の動作介助および日常生活注意点の指導法を学び実践できる。					
13	疾患別 動作介助方法・生活指導方 呼吸器疾患					病態を理解し、呼吸器疾患の生活動作、姿勢、歩行について指導方法を学び実践できる。					
14	疾患別 動作介助方法・指導方法 神経疾患					ALS、ギランバレー症候群、脊髄小脳変性症疾患の方の病態を理解し、補助具、寝返り・起き上がり、生活指導方法を学び実践できる。					
15	摂食・嚥下障害 総論 実技					嚥下障害を理解し、護食、とろみ食実施体験することで作成方法、介助方法を実践する。					
〔評価について〕						〔特記事項〕					
確認試験・期末試験とする。 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認試験(50点)と期末試験(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。						配布資料に重要項目は書き込むこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	3	開講区分	後期	担当教員 松田 輝洋 先生			
授業科目名				必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (2)	授業回数	15
疾患別理学療法学Ⅱ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 急性期リハビリの臨床経験のある教員による授業である。本教科では、臨床現場で接する機会の多い循環器系・呼吸器系に関連する領域の基礎知識を広く理解し、それぞれの疾患に対応した理学療法の評価と治療法の基本を身につけることである。											
〔到達目標〕 循環、呼吸に関する解剖学・生理学的な基本知識を整理し、循環・呼吸機能の評価、問題点抽出、治療到達目標設定と運動療法のプログラム作成、リスク管理などについて講義および実習を行う。 ・循環器の病態や診断基準、治療について理解する。 ・呼吸器の病態や診断基準、治療について理解する。											
〔使用教材、参考文献等〕 なし					〔準備学習・時間外学習〕 各回の授業開始時に前回授業の振り返り小テストを行う。専門用語の理解も問われるため復習して授業に臨むことが望ましい。						
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	・オリエンテーション 【内部障害】 内部障害総論 【循環器】 循環器理学療法総論					内部障害の範囲について理解する。酸素搬送系の障害を理解し、説明できる。					
2	・【循環器】 解剖・生理 確認・復習					循環、呼吸、代謝、排泄の生理学を復習する。					
3	・【循環器】 検査・測定①					循環器系の役割と運動時の循環器系のメカニズムを理解し、疾患の評価を理解できる。					
4	・【循環器】 検査・測定②(運動負荷試験)					栄養障害の原因をふまえ、骨格筋や運動耐容能に与える影響を説明できるようにする。					
5	・【循環器】 検査・測定③(心電図)					正常心電図波形を理解する。					
6	・【循環器】 運動療法① 実技 疾患各論①・②					各循環器疾患の疫学的特徴を理解する。実技にて心拍変動をみるため心電図モニター観察する。					
7	・【循環器】 運動療法② 実技 疾患各論③・④					各循環器疾患の疫学的特徴を理解する。実技にて心拍変動をみるため心電図モニター観察する。					
8	確認テスト										
9	・【呼吸器】 呼吸器系の解剖・生理					呼吸器系の解剖・生理学について復習し、呼吸リハに必要な内容を説明できる。					
10	・【呼吸器】 検査・測定①					呼吸器疾患の特徴と必要な検査測定について理解する。					
11	・【呼吸器】 検査・測定②					呼吸器疾患の特徴と必要な検査測定について理解する。					
12	・【呼吸器】 運動療法①					呼吸器疾患に対する理学療法の役割を理解し、リスク管理の重要性を学ぶ。					
13	・【呼吸器】 運動療法② 喀痰吸引について					呼吸器疾患に対するドレーニングの効果や運動強度の必要性を理解する。喀痰吸引について理解する。					
14	・【その他】 その他内部障害について					腎機能障害・がんにおける各種治療から生じる、理学療法の対象障害を理解し、説明できる。					
15	期末テスト 解説										
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法学科		学年	3	開講区分	3年後期	担当教員		
授業科目名								室井 大佑 先生		
				必修/選択	必修	授業形態	講義・実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数
疾患別実習Ⅱ(中枢分野)										
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)										
神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な理学療法の進め方(一般的評価、理学療法の目的ならびに具体的方法、リスク管理)について学修する。専門科目である解剖学・生理学の神経系の構造と機能等を復習しておくこと。										
〔到達目標〕										
小脳・脳幹障害の病態・評価・リハビリテーションの実際について学ぶ 脳血管障害後の合併症、高次脳機能障害について学び、ICFに基づいた臨床推論、プログラムの立案ができる										
〔使用教材、参考文献等〕 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅰ,Ⅱ					〔準備学習・時間外学習〕 準備学習1時間(シラバスに従ってテキストを読んでおく) 時間外学習1時間(ノートまとめ)					
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)				
1	片麻痺患者に対する予後予測					片麻痺患者に対する予後予測を理解できる				
2	脳血管障害の上肢機能と合併症					脳血管障害の上肢機能と合併症を理解できる				
3	脳血管障害の合併症(嚥下、栄養障害) 小テスト					脳血管障害の合併症を理解できる				
4	高次脳機能障害に対する理学療法					高次脳機能障害に対する理学療法を理解できる				
5	高次脳機能障害に対する理学療法の実際:症例検討					高次脳機能障害に対する症例検討を理解できる				
6	脳の構造・機能(小脳、脳幹)、運動失調の病態 小テスト					脳の構造・機能(小脳、脳幹)、運動失調の病態を理解できる				
7	運動失調に対する評価とプログラムの実際:実習					運動失調に対する評価とプログラムを身に付ける				
8	小脳障害症例に対する症例検討:実習					小脳障害に対するICF、プログラム立案ができる				
9	頭部外傷・脳腫瘍の病態 小テスト					頭部外傷・脳腫瘍の病態を理解する				
10	頭部外傷・脳腫瘍のリハビリテーション					片麻痺患者に対する運動療法を身に付ける				
11	脳卒中治療ガイドライン					脳卒中治療ガイドラインを理解できる				
12	認知神経科学にも基づくリハビリテーション 小テスト					認知神経科学に基づき理学療法を理解する				
13	第1-12回まとめ					第1-12回まとめ				
14	期末テスト					期末テスト				
15	テスト返却及びテスト振り返り、神経系理学療法の現状と未来					テスト返却及びテスト振り返り、神経系理学療法の現状と未来を知る				
〔評価について〕 合格基準は学校基準に準ずる 小テスト40点/期末テスト60点					〔特記事項〕					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース		理学療法士科Ⅱ部		学年	1	開講 区分	後期	担当教員 田中 信一			
授業科目名				必修 ・ 選択	必須	授業 形態	演習	時間数	30	授業 回数	15
評価実習前教育											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
協同学習を通じて、これまでの授業で得た知識を臨床に生かせるよう構築するとともに、臨床推論技能を発達させる。効率的に自ら考え、問題を解決する力を身につける臨床現場において対象者に効果的な理学療法を提供できる基盤となることを意識して受講してほしい。											
〔到達目標〕											
①情報からにかかわる事項を洗い出すことができる。②問題解決のための仮説を立てることができる。 ③問題点を関連づけることができる。④症例の全体像を把握しICFの表を作成することができる。											
〔使用教材、参考文献等〕											
基本編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考第2版 文光堂											
回	〔授業概要〕					到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション ケーススタディ 初期情報					初期情報を理解し、ポイントを掴むことができる。					
2	一般的な症例報告の構成要素					検査結果の書き方、統合と解釈、問題点抽出、目標設定、治療プログラムを説明することができる。					
3	臨床思考過程：障害構造の大枠					症例の特徴を捉え、何が課題となっており、何が要因か明確にすることができる。					
4	ケーススタディ 骨関節障害理学療法					ケーススタディを通して、臨床思考の過程の流れを追行する。					
5	臨床思考過程：症例報告見学					症例報告を見学し、発表の内容を理解し、疑問をもつことができる。					
6	ケーススタディ 骨関節障害理学療法					ケーススタディを通して、臨床思考の過程の流れを追行する。					
7	ケーススタディ 骨関節障害理学療法					ケーススタディを通して、臨床思考の過程の流れを追行する。					
8	ケーススタディ 神経障害理学療法					ケーススタディを通して、臨床思考の過程の流れを追行する。					
9	ケーススタディ 神経障害理学療法					ケーススタディを通して、臨床思考の過程の流れを追行する。					
10	ケーススタディ 神経障害理学療法					ケーススタディを通して、臨床思考の過程の流れを追行する。					
11	ケーススタディ 内部障害理学療法					ケーススタディを通して、臨床思考の過程の流れを追行する。					
12	ケーススタディ 内部障害理学療法					ケーススタディを通して、臨床思考の過程の流れを追行する。					
13	グループセッション					臨床思考過程と統合と解釈・問題点についてする説明ことができる。					
14	グループセッション					臨床思考過程と統合と解釈・問題点についてする説明ことができる。					
15	グループセッション					臨床思考過程と統合と解釈・問題点についてする説明ことができる。					
〔評価について〕 評価実習、実習後教育より評価する。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項についてはりメモをとること。 疑問点は担当教員にアドバイスをもらうこと。						